

平成 17 年度経済産業省委託調査報告書

進路選択に関する振り返り調査

大学生を対象として

報告書

平成 17 年 10 月

株式会社ベネッセコーポレーション

はじめに

わが国が将来にわたって豊かな経済社会を継続できるかどうかは、国民、民間企業などがより高い付加価値を生み出す産業を実現できるかどうかにかかっている。この点を考えると、初等教育から高等教育までの各教育段階において、そのような価値創出を担う人材育成が実現されているのか、学校教育が育成している資質・能力と経済社会を支える産業人材として必要な資質・能力が合致しているのかを明確にする必要がある。とりわけ、科学技術の進展や専門領域間の融合が著しい理工系領域において、どのように人材の育成が行われており、そこにどのような課題があるのかを明らかにすることは、産業競争力を維持する上でも不可欠といえる。

本調査は、このような問題関心にに基づき、大学生の進路形成や能力育成の実態について明らかにすることを目的としている。専門とする学問領域が選択される過程に、小・中学校時代の体験、高校時代の文系 - 理系の選択、教科の好き嫌い、大学への進学理由、希望する進路などの要因がどのような影響を及ぼしているのかを検討し、そのうえで、各教育段階（初等教育から高等教育まで）における教育内容や進路指導・職業指導の課題、進路変更や大学入試等の制度上の課題、女性の理工系分野への進出を妨げる可能性のある要因などの分析を行った。

今回ご報告する内容は、平成 16 年度経済産業省委託調査「理工系人材育成・確保に関する実態調査」の一環として実施された「進路選択に関する振り返り調査」を再分析したものである。これら一連の成果が、わが国の理工系人材の育成・確保を促進するうえで検討すべき課題を明らかにし、喫緊の課題である人材育成に関する具体策の策定のための資料として生かされ、基盤の確立を実現する一助となれば幸いである。

なお、本調査では、6,463 名の大学生にご協力をいただきました。調査協力者の皆様をはじめ、今回の事業を支えてくださった多くの方々に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

平成 17 年 10 月

株式会社ベネッセコーポレーション
Benesse 教育研究開発センター
センター長 新井 健一

はじめに	3
目次	4
調査概要	6

第1章 大学入学までの進路選択過程..... 15

1. 小・中学校時代の保護者とのかかわり 16
2. 小・中学校時代の体験 23
3. 高校時代の教科の好き嫌い 39
4. 進路を決めるときに影響したこと 63
5. 意見を参考にした相談相手 68
6. 参考にした情報源 72
7. 進路を選択するときの悩み 76
8. 高校時代の進路変更 81
9. 大学入学試験 93

第2章 大学における学習状況や大学生活の実態.....111

1. 大学への進学理由 112
2. 大学や学部・学科選択で重視したこと 122
3. 大学や学部・学科についての満足度 130
4. 入学前の情報と実際の大学とのギャップ 155
5. 学びに必要な能力や態度 158
6. ふだんの学生生活 180

第3章 大学生の進路選択過程.....201

1. 大学入学までの進路選択過程 202
2. 適切だと思ふ進路選択の時期 234
3. 大学卒業後の進路選択について 248

第4章 女子の理工学系統への進学.....291

1. 小・中学校時代の活動や体験 294
2. 高校時代の進路選択過程 302
3. 大学の選択や職業意識に関して 310

まとめと提言.....319

調査票見本 332

基礎集計表 344

【留意点】

- ・ 百分比(%)は有効回収数のうち、その設問に該当する回答者を母数として算出し、小数第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、各々の項目の数値の和と合計を示す数値とが一致しない場合がある。

調査概要

1．調査目的

本調査は、大学生を対象にして進路選択に関する振り返り調査を行うことにより、文系 - 理系、大学での専門領域、進学する大学の決定などの進路選択に影響を及ぼす要因を明らかにすることを目的としている。とくに、理工系領域に進学した学生の進路形成や能力形成について詳細な分析を行うことで、同領域における高等教育段階までの人材育成の実態と課題を検討している。

*なお、本調査は、平成 16 年度に経済産業省より委託を受けた『理工系人材の育成・確保に関する実態調査』の一環として実施されたものである。

2．調査概要

(1) 調査テーマ

大学生の進路選択に関連する要因。

(2) 調査方法

郵送法による自記式質問紙調査。

(3) 調査時期

2005 年 1 ~ 2 月。

(4) 調査対象

株式会社ベネッセコーポレーションが所有する「進研ゼミ・ゼミレポーター* (大学生)」の名簿から、全国の 4 年制大学に通う文系男子学生 2,500 名、文系女子学生 2,500 名、理系男子学生 2,500 名、理系女子学生 2,500 名、合計 10,000 名を抽出した。

*ゼミレポーターとは、弊社「進研ゼミ」の元会員を母体としており、大学等に進学する際に、後輩となる進研ゼミ会員のために、教材制作や各種情報サービスへの協力を申し出てくれた協力スタッフの組織で、全国で約 45,000 名の大学生 (大学院生も含む) が登録をしている。

*ここで言う「文系」「理系」の区分けは、登録時に大学生本人が申告した大学の学部 (学群、学類)、学科 (専攻、課程) コースをもとに、弊社で分類を行ったものであり、調査対象の抽出にのみ使用している。なお、本調査の分析で用いている「文系」「理系」の区分けは、今回の調査対象者に対して、「大学で専門としている学問領域は、文系・理系のいずれに該当すると思われますか」とたずねた結果をもとにして行っている。

(5) 回収結果

調査票の有効回答数は 6,463 通 (配布数 10,000 通、回収率 64.6%) である。

(6) 調査項目

調査項目は以下の通りである。

小・中学生のころのことについて

- ・小・中学校時代の保護者のかかわり
- ・小・中学校時代の経験

高校生のころのことについて

- ・高校時代の教科の好き嫌い
- ・進路を決めるときに影響したこと
- ・進路を決めるときに意見を参考にした相談相手
- ・参考にした情報源
- ・進路を選択するときの悩み
- ・高校時代の進路変更

大学受験や現在通っている大学について

- ・大学への進学理由
- ・大学や学部・学科選びで重視したこと
- ・大学や学部・学科の満足度
- ・大学に関する入学前の情報と実際の大学とのギャップ
- ・学びに必要な能力や態度
- ・普段の学生生活

文系・理系の選択や進路選択について

- ・進路選択の時期
- ・大学入学後の専攻分野の変更

将来の職業選択について

- ・希望する進路
- ・希望する業種・職種
- ・就職先を決めるときに重視すること
- ・職業に関する意識や自己理解

3. 回答者の特性

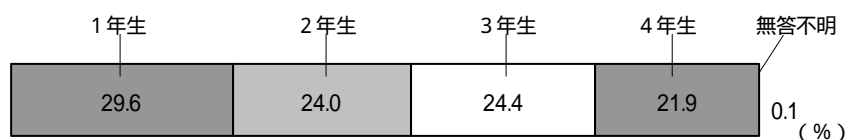
(1) 性別

回答者の性別は、「男子」が43.8%、「女子」が56.1%、「無答不明」が0.2%であった。



(2) 学年

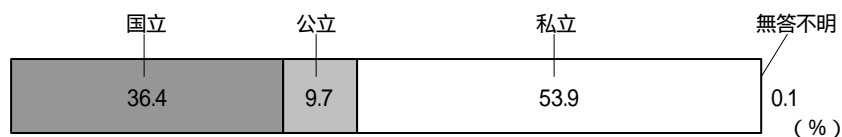
回答者の学年の内訳は、「1年生」が29.6%、「2年生」が24.0%、「3年生」が24.4%、「4年生」が21.9%、「無答不明」が0.1%であった。



(3) 在籍大学・学部

設置元

それぞれの設置元に在籍している回答者の内訳は、「国立」が36.4%、「公立」が9.7%、「私立」が53.9%、「無答不明」が0.1%であった。なお、文部科学省の『平成16年度学校基本調査』によれば、4年制大学のうち学生が在籍している大学の内訳は、「国立」は18.3%、「公立」は4.2%、「私立」は77.5%となっており、本調査では、実際の国公私立の構成よりも国立大学の比率が高い。

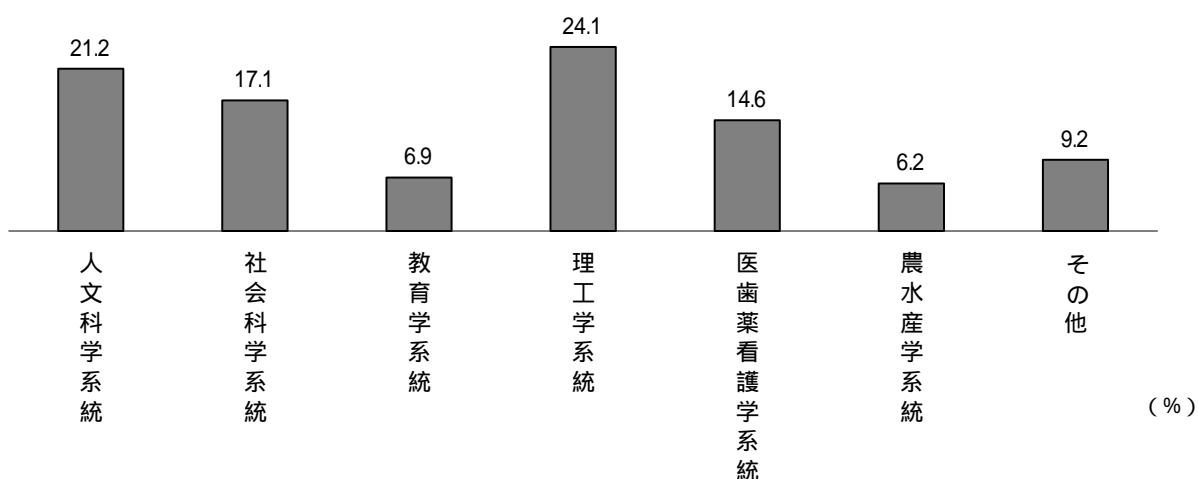


在籍学部

回答者の在籍学部の比率は、「人文科学系統」21.2%、「社会科学系統」17.1%、「教育学系統」6.9%、「理工学系統」24.1%、「医歯薬看護学系統」14.6%、「農水産学系統」6.2%、「その他」9.2%であった。文部科学省の『平成16年度学校基本調査』とは学部分類が異なるが、人文科学系統、理工学系統、医歯薬看護学系統の比率が高く、社会科学系統の比率が低い。

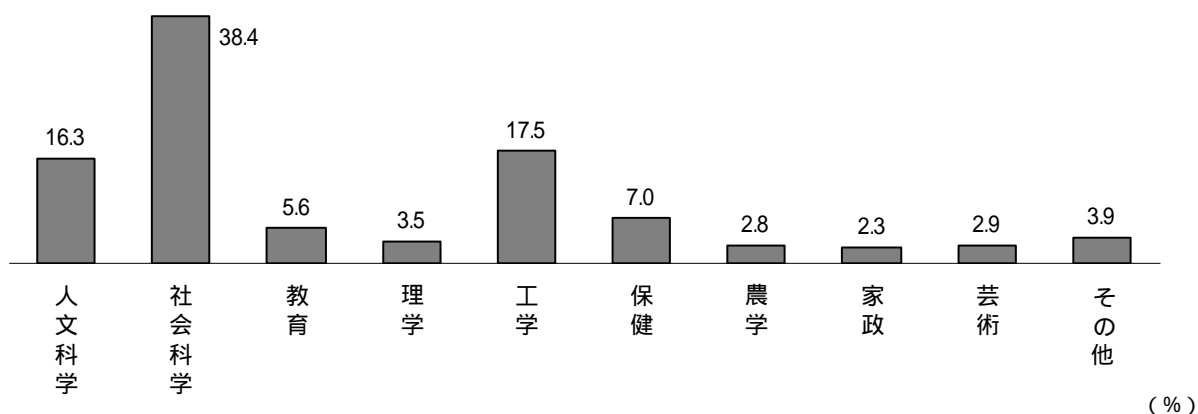
ちなみに、各学部系統の内訳は、以下の通りである。

- ・人文科学系統.....「人文学系統」16.5%、「外国語学系統」4.8%
- ・社会科学系統.....「法学系統」7.2%、「経済・経営学系統」9.9%
- ・教育学系統.....「教育学系統」6.9%
- ・理工学系統.....「理学系統」6.4%、「工学系統」17.7%
- ・医歯薬看護学系統...「医歯薬看護学系統」14.6%
- ・農水産学系統.....「農水産学系統」6.2%
- ・その他.....「生活科学系統」2.8%、「芸術学系統」1.8%、「体育学系統」0.9%、「その他・学際学系統」3.7%



*学部系統について「無答不明」(0.6%)は図から省略した。

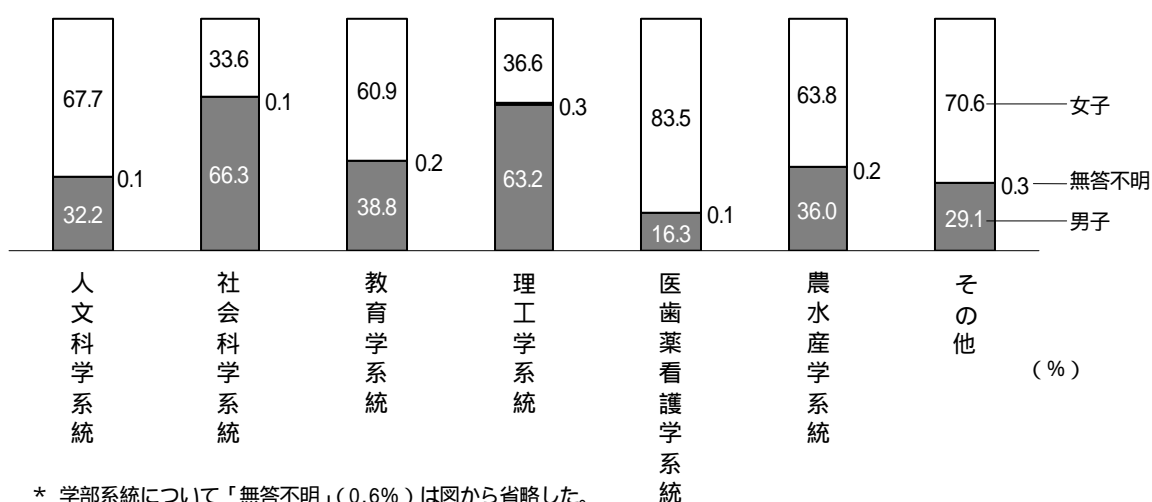
【参考：平成16年度学校基本調査（文部科学省）】



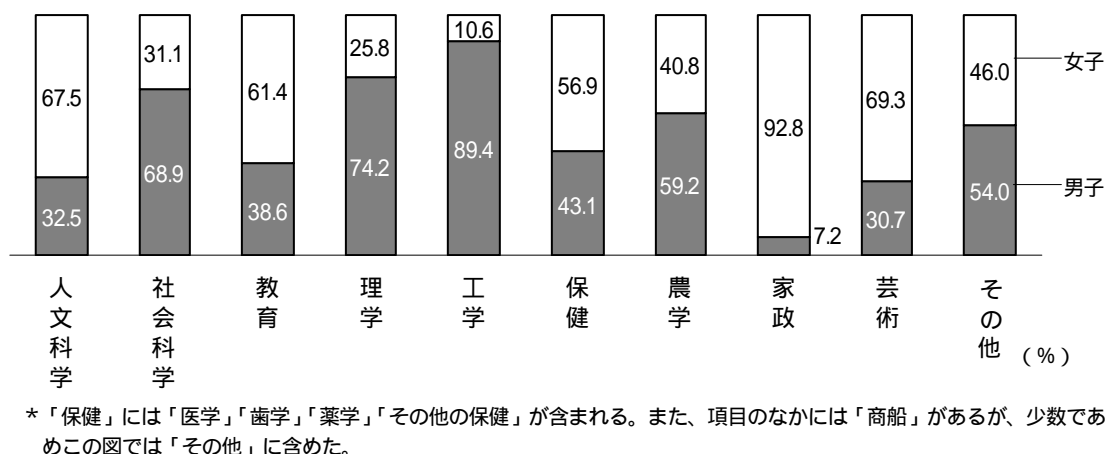
*「保健」には「医学」「歯学」「薬学」「その他の保健」が含まれる。また、項目のなかには「商船」があるが、少数であるためこの図では「その他」に含めた。

性別（学部系統別）

在籍学部ごとの男女比率は、「人文科学系統」が男子 32.2% < 女子 67.7%、「社会科学系統」が男子 66.3% > 女子 33.6%、「教育学系統」が男子 38.8% < 女子 60.9%、「理工学系統」が男子 63.2% > 女子 36.6%、「医歯薬看護学系統」男子 16.3% < 女子 83.5%、「農水産学系統」が男子 36.0% < 女子 63.8%、「その他」が男子 29.1% < 女子 70.6%であった。文部科学省の『平成 16 年度学校基本調査』とは学部分類が異なるが、理工学系統、医歯薬看護学系統、農水産学系統において女子の比率が高い。これは、理系女子も全体の四分の一を抽出したためだと考えられる。

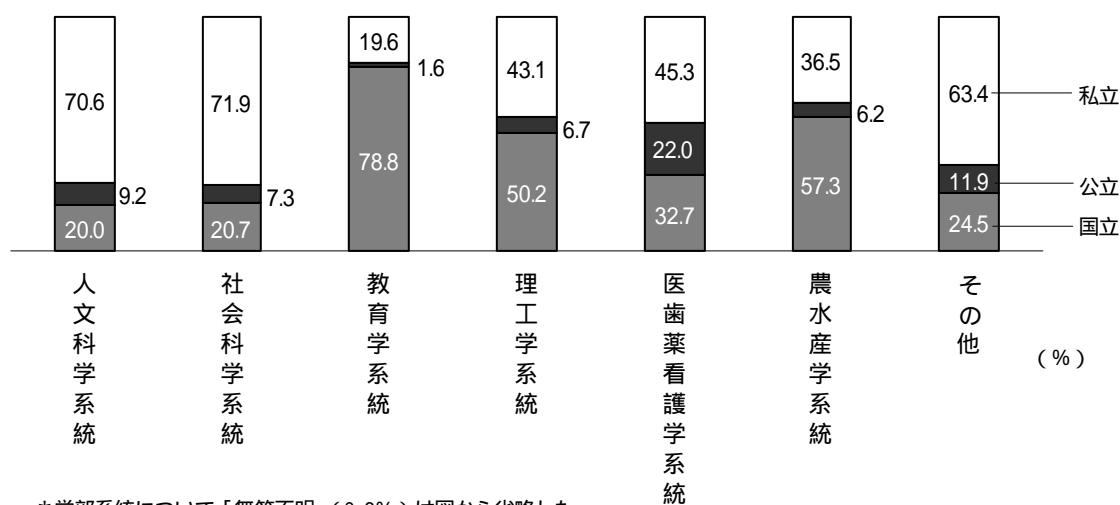


【参考：平成 16 年度学校基本調査（文部科学省）】



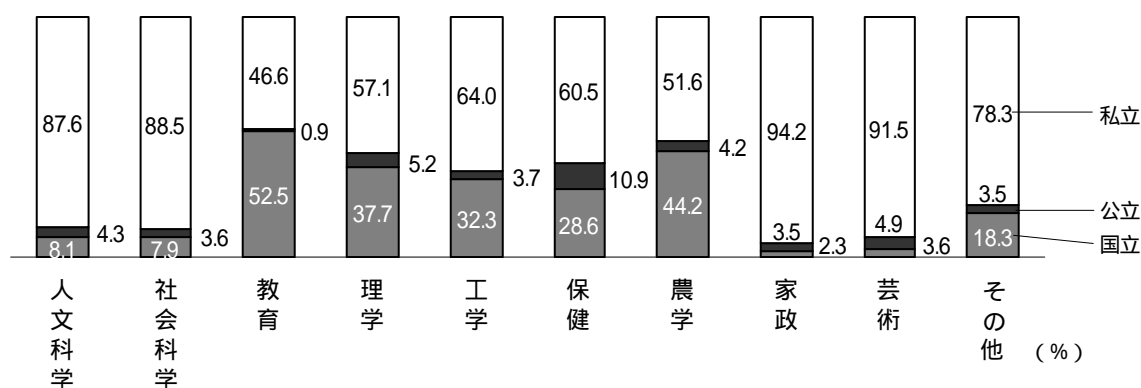
設置元（学部系統別）

回答者の在籍学部の設置元の比率は、「人文科学系統」が、国立 20.0%、公立 9.2%、私立 70.6%、「社会科学系統」が、国立 20.7%、公立 7.3%、私立 71.9%、「教育学系統」が、国立 78.8%、公立 1.6%、私立 19.6%、「理工学系統」が、国立 50.2%、公立 6.7%、私立 43.1%、「医歯薬看護学系統」が、国立 32.7%、公立 22.0%、私立 45.3%、「農水産学系統」が、国立 57.3%、公立 6.2%、私立 36.5%、「その他」が、国立 24.5%、公立 11.9%、私立 63.4%だった。文部科学省の『平成 16 年度学校基本調査』とは学部分類が異なるが、いずれの学部系統でも国立大学、公立大学の比率が高い。



*学部系統について「無答不明」(0.6%)は図から省略した。

【参考：平成 16 年度学校基本調査（文部科学省）】

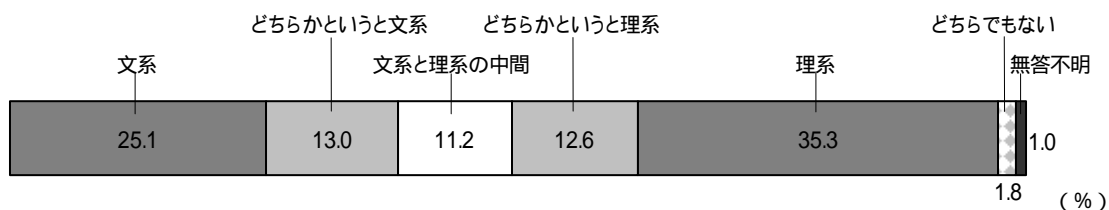


*「保健」には「医学」「歯学」「薬学」「その他の保健」が含まれる。また、項目のなかには「商船」があるが、少数であるためこの図では「その他」に含めた。

(4) 文系 - 理系

回答者に大学で専門としている学問の領域をたずねたところ、「文系」が25.1%、「どちらか」というと文系」が13.1%、「文系と理系の中間」が11.2%、「どちらか」というと理系」が12.6%、「理系」が35.3%、「どちらでもない」が1.8%、「無答不明」が1.0%であった。

なお、本文中においては、「文系」と「どちらか」というと文系」を『文系』、「理系」と「どちらか」というと理系」を『理系』として分析している。



文系 - 理系 (学部系統別)

(%)

	人文科学系統	社会科学系統	教育学系統	理工学系統	医歯薬看護学系統	農水産学系統	その他
文系	66.1	48.8	24.8	0.1	0.1	0.2	9.6
どちらかという文系	20.1	31.6	25.0	0.3	1.3	0.7	13.3
文系と理系の中間	9.2	15.4	19.2	2.4	15.8	3.7	22.7
どちらかという理系	2.1	2.4	16.1	8.8	33.2	20.1	25.0
理系	0.3	0.6	8.9	87.5	46.7	73.2	19.5
どちらでもない	0.9	0.5	4.5	0.5	1.8	0.2	8.4
無答不明	1.2	0.8	1.6	0.4	1.1	1.7	1.5

*学部系統について「無答不明」(0.6%)は図から省略した。

(5) COE採択回数

回答者が在籍している大学が21世紀COEプログラム(平成14~16年)に何回採択されているかをみた。「0回」の大学に在籍している比率が55.1%、「1回」の大学に在籍している比率が23.0%、「2回」の大学に在籍している比率が15.4%、「3回」の大学に在籍している比率が6.5%、「無答不明」が0.0%であった。



*「21世紀COEプログラム」の審査要項によると、その目的は、「我が国の大学に世界最高水準の研究教育拠点を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るため、重点的支援を行い、もって、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進すること」となっている。平成14~16年度の3か年で、93大学274件が採択されている。

COE採択回数(学部系統別)

	人文科学系統	社会科学系統	教育学系統	理工学系統	医歯薬看護学系統	農水産学系統	その他
0回	65.4	50.4	68.5	39.3	64.4	40.9	68.6
1回	20.2	26.7	14.7	32.5	16.9	26.1	12.4
2回	10.9	17.4	13.4	19.3	11.3	22.3	16.1
3回	3.6	5.5	3.3	8.9	7.4	10.7	2.9
無答不明	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0

*学部系統について「無答不明」(0.6%)は図から省略した。